

平成二十三年（二〇一一年）一月十日 恋愛

神から人へ 人から神へ。

今や残さる時は少なし。人類全ての存亡に 迫る危難に 早くに気付けよ。

さにて 本日、人間世界の恋愛について答えを示さむ。

恋愛感情、思慕の情、そは人には根源の、種の生存に不可欠の、本能なるに近きもの。

なれど人は、それを高め、相手を愛しむ心を養い、我が身を賭すも恐れることなき、犠牲の尊さすら学べり。

人が今日 生き延びて、かくまで繁栄発達せしも、愛の心を学びし故なり。

親子に兄弟、家族に知人。弱かりし故に、助け合い、慣れ親しみ合いて情けを通じ、他の利となるを喜びて、己の命も惜しまず捧ぐ。愛の始めは本能なれど、そこに利他の心が伴い、自己の犠牲を喜ぶ心。

その究極が恋ならむ。

恋というは激しきもの。相手を己のものとしむと、独占欲を高じさせむ。

思いの届かぬ相手を憎み、恨みの心を募らせむ。

人は恋する相手を縛り、心移りのなきを願わむ。

なれど恋は儚きもの。愛の重さを伴わず、短き時にて移り変わらむ。

恋にて人は喜びも、悲しさ、切なさ、苦しきも、この世における心の営み、その複雑なるを学ぶなり。

恋は心を喜ばせ、樂しませるもあるなれど、時に激しき妬みを生みて、恨みの心を生じさせむ。

なれば恋は 難かしきもの。恋の心は、抑え難かり。

恋は人の生を彩り、人の世界に様々なる文化の種を生み出せり。
なれど恋は不自由なもの。

人の世界は倫理を定め、恋の自由を戒めむとす。

倫理のなからば人の世は、恋にまつわる犯罪にて、
獣の如き世とならむ。

なれば恋は危うきもの。

許されぬ恋は苦しきもの。祝福されぬ恋は狂おし。

倫理は理性の働きて、恋は生の本能なれば、恋の心を鎮めるは、最も辛く苦しきものなり。

なれど恋は人の心に鮮やかにしてみずみずしき、
潤い与え、豊かにするもの。

苦しき心も、心に綾を、深みを与えるものならむ。

短き生の束の間にも、人は恋を楽しむべし。

恋の心を高めゆかば、そもまた心の行とならむ。

焦がれる心を鎮めるは、一つの心の鍛練ならむ。

独占欲を抑制し、犠牲の心を育まば、恋も一つの行ならざるや。

人の世界の倫理を守りて、心の恋をば楽しめよ。

年を重ねるその度に、恋の楽しみ、深めゆけ。

さにて本日、人の世界に欠かせぬ恋について伝えたり。

人の心に幸いあれよ。恋にて生に彩り添えよ。さにて。